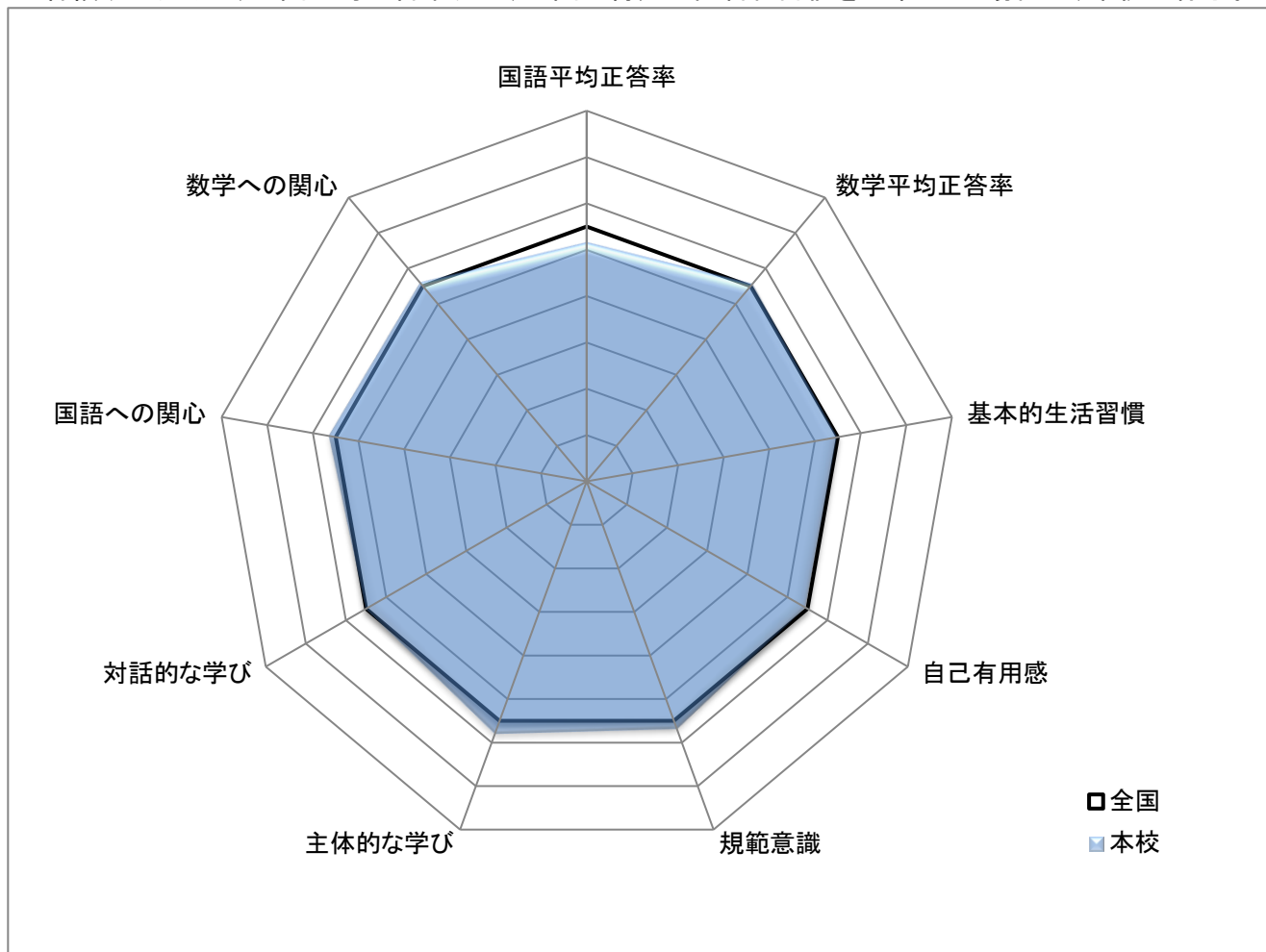


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語は話す聞くこと-8.2、書くこと-2.6、読むこと-4.5だった。数学は数と式-2.9、図形-1.3、関数-2.0、データの活用+1.5だった。国語、数学は全体的に全国の平均を下回っているが、数学出題分野によっては全国の平均を上回ることができた。

《授業改善のポイント》

- (国語)
- ・聞くこと小テストを実施しており、今後も継続していく。
 - ・読み取る力を伸ばすために、特に説明的文章の読解の力をつけていく。そして、それを表現すること(話し力、書く力)に応用させるように対話の授業の回数を増やしていく。
- (数学)
- ・図形の領域では、模型やICTを活用して、実物に触ることや視覚的に図形を学び、理解を深める。また、図形の面積や角度を求める計算問題に対応できるように計算力をつけていく。また、定期的に計算コンテストや図形コンテストなどを実施し、領域別による正答率格差を改善する。
 - ・全学年、授業開始5分で基礎計算テストを行い基礎計算力の向上を図る。

《チャートの特徴》

全国平均正答率と比較すると、国語-4.1%、数学+0.5%となり、国語は全国平均を下回るが、数学は全国平均を上回る結果になった。さらに、全教科とも教科への関心が高い(全国比で国語1.03倍、数学1.27倍)。数学のその高さと同様に正答率も比例しているものと考えられる。また主体的な学びのポイントが本校は高く、全国平均の1.05倍となっており、数学の正答率向上にもつながっていると言える。

《家庭・地域への働きかけ》

授業の振り返りシートや定期考査の学習計画表などを通して学習習慣の確立を図る。進路に関する情報を積極的に発信し、関心を高めるよう努める。放課後補習教室等を活性化させ、学習内容の定着により一層力を入れる。